

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和4年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領を目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして実施します。高知市の拠点校である城西中学校の第3回【教材研究会】（9月20日実施）、第4回【授業研究会】（10月24日実施）を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

領域「書くこと-I」 第1学年“Foreign Artists in Japan” NEW HORIZON English Course 1 Unit 7 (東京書籍)

教材研究会

「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標

自分の好きなことや日常的にしていること、身近な人や有名人、自分の体験などについて、つながりのある文章を書くことができる。

【生徒の実態】小学校での外国語の学習で培った話す力により、「話すこと」に対して抵抗は少ないが、「書くこと」に対して苦手意識をもっている生徒が多い。

領域における資質・能力と言語活動の系統表

Table with 3 columns: 外国語活動, 小・外国語科, 中・外国語科. It details learning objectives and activities for each stage.

単元目標

ナイロビ日本人学校の中学1年生や教職員に、高知を知ってもらい、行ってみたいと思ってもらうために、高知の文化について自分の気持ちを踏まえて、紹介文を書くことができる。

単元ゴールで目指す表現例(b基準)

This is Yosakoi Festival. Do you know it? You can enjoy it from August 9th to 12th in Kochi. Which do you like dancing or watching Yosakoi? I like dancing, so I dance Yosakoi every year. I join the Kamimachi team. It's our local team. We wear beautiful costumes like kimono. Yosakoi is fun for me. Please come to Kochi and enjoy Yosakoi someday.

単元ゴールの評価基準

- 【条件1】事実やそれに対する自分の思いを踏まえて、まとまりのある文章で書いている。
【条件2】読み手意識(高知に来たことがない、海外に住んでいる等)をもって書いている。

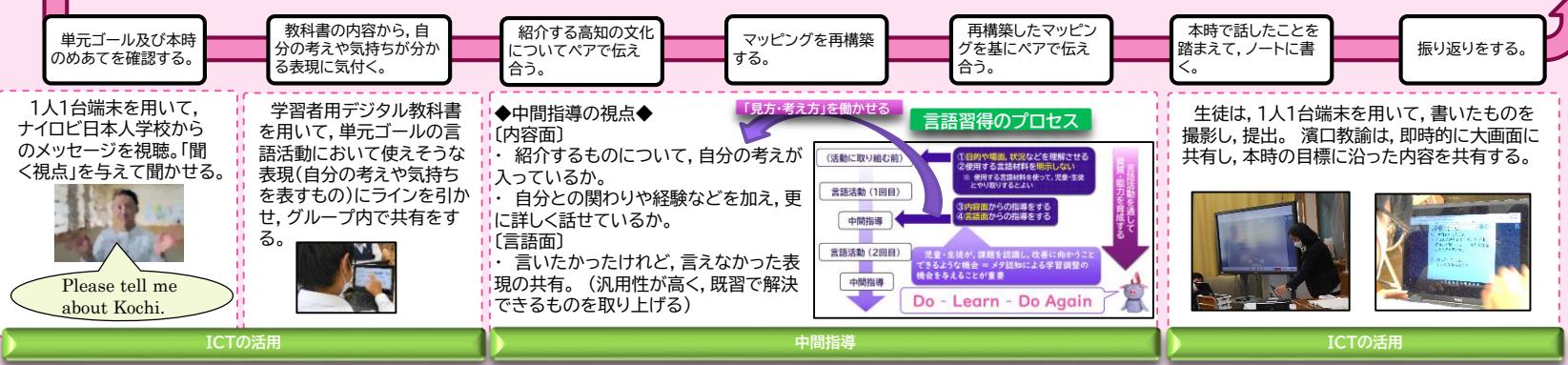
単元構想

Table with 3 columns: 時, 主な言語活動等, 指導上の留意点. It outlines the lesson plan and key points for each session.

授業研究会 2/8時間目(本時)

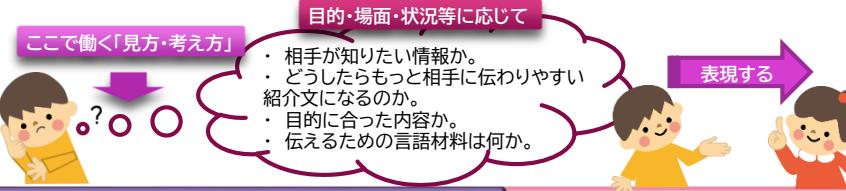
本時の目標：自分が紹介する高知の文化について、自分の気持ちを踏まえ、相手に分かりやすく伝えることができる。

【目指す生徒の表現例(b基準)】 This is Yosakoi Festival. Do you know it? It is a famous festival in Kochi. You can enjoy it from August 9th to 12th in Kochi. Many people dance with naruko and colorful costumes. I like dancing Yosakoi.



外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。



小中9年間の学びの系統性~第四小との連携~

学習指導要領では、小学校から高等学校までの指導の一貫性が求められ、小学校から中学校への円滑な接続が重視されている。小・中・高の指導を「言語活動を通して」行い、連続性、系統性のある指導の実現のため、小中連携はより必要性が増している。

- ◆ 小中連携会議(年4回実施)
-> 学習到達目標や指導方法を共有することができた。
◆ 互いの授業を参観
-> 学習内容や指導法を把握することができ、継続性を意識して指導に生かすことができた。
◆ 第四小と城西中の「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を一体化
-> 小中の学びのつながりを視覚化でき、系統性をもって指導することができた。

講師講話

文部科学省初等中等教育局 教科調査官 入之内 昌徳 先生

1. 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定することで、英語を用いて何が出来るようになるのか、予め明確にすることができ、それを子供と共有することで、授業のねらいが明確になると共に、適切な指導を行うことができる。指導者が「Navigator」として、単元ゴール(行き先)を子供たちと共有しながら進めていくことで、子供たちは安心して言語活動に取り組むことができる。

2. 1人1台端末の効果的な活用

指導者がどんな子供に育てたいのか、そのためにはどんな手立てが必要かを考えることが大切。育成したい力を明確にしておかないと、ICTの活用が目的化してしまう。目的と手段を混同しないようにしなければならぬ。1人1台端末を使って、誰かと交流するなど、協働的な学びもできる。ICT活用のメリットを生かし、教師ならではの指導力とICTの活用によって、生徒の英語力を高めていこう。

「ほんもの」の言語活動

Activity example showing a student's introduction of Kochi to a friend, including photos of local spots like Kashiwajima and Ryoma, and a handwritten letter.

参加者の声

- ・ 生徒が興味をもって主体的に取り組めるようなゴール活動の設定が大事だと、改めて感じた。「何が出来るようになったか」を、生徒自身が実感し、小さな成功体験を積み重ねることができるよう指導していきたい。
・ 効果的な中間指導となるよう、生徒の活動をしっかりと見取ることが大事で、また、どこがいいのかを生徒自身に気付かせるように意識して取り組んでいこうと思う。
・ 英語科も国語科と同様、付けたい力と単元ゴールの言語活動の設定を明確にすることが主体的な学びにつながることを再認識した。更に、言語活動の質を高めていくためには、情報の整理、自分の考えの形成、交流、再構築といった学習過程のスタンダード化を図り、継続していく。

3. 小・中の学びをつなぐ

【小・中の指導を円滑にするために大切にしたいポイント五つ】

- ① 「言語材料」をつなぐ->小学校で学習する語句や表現を知る。
② 「言語活動」をつなぐ->小学校での具体的な言語活動やパフォーマンステストを知る。
③ 「教材」をつなぐ->小学校でどのような教材を用いているのかを知る。
④ 「学び方」をつなぐ->コミュニケーションを図る態度、学び方を共有し、引き継ぐ。
⑤ 「人」をつなぐ->「育てたい児童生徒像」の共通理解

目 標 と 指 導 と 評 価 の 体 化